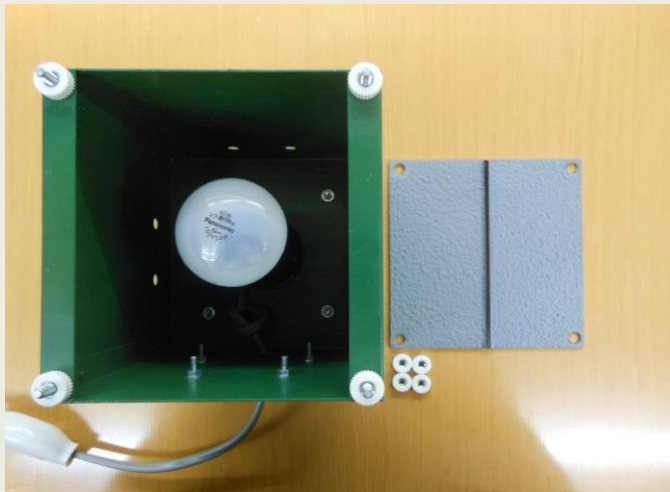


ビックリボックス シングルタイプ セット内容



①実験機本体
(60W型レフ球 100V)

②鉄板 1枚
中央でガイナ・一般塗料の塗布面が分けられています。
(グレーの面)

③化粧ネジ・ナット (4個)



化粧ネジとナットで実験用鉄板を固定した状態で発送しております。
ご使用前にナットと鉄板を取りはずし、
再度ナットのみ取り付けて下さい。
※実験はナットの上に鉄板を置いて使用します。

火傷注意！！



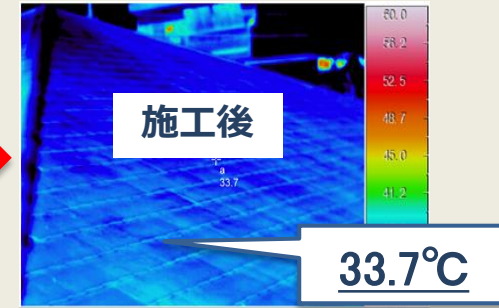
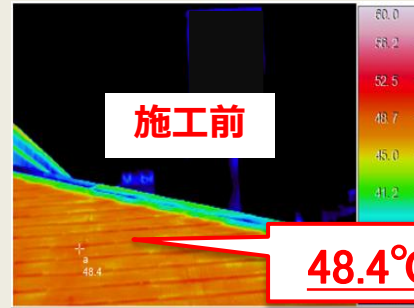
断熱実験器 使用上の注意 (ご使用前に必ずお読み下さい)

- 1) 60W形レフ球 (100V 54W) を1個使用しています。電圧、電流を確認の上ご使用願います。
- 2) 当断熱実験は、電球で鉄板を加熱するため、電球、鉄板等高温になります。ご使用前に必ず本紙をお読み頂き、実験中は必ず軍手等保護具を着用の上、火傷には充分ご注意下さい。
- 3) 当断熱実験器は防水仕様にはしておりませんので、濡れた手で操作しますと感電の恐れがあります。必ず乾いた手で操作願います。
- 4) 電球交換は必ずスイッチを切ってから行って下さい。また電球交換の際は同規格の新しい電球に交換して下さい。
- 5) 密閉状態で電球を発熱させますので、長時間実験を続けた場合電球が破裂する恐れがあります。実験は最長8分以内でお願い致します。
- 6) 電球から鉄板までの距離が近すぎると、一般塗装の塗料が発火する恐れがあります。必ずスパーサー (化粧ネジ) を鉄板の下に置き実験を行って下さい。

暑さ対策：断熱・遮熱について

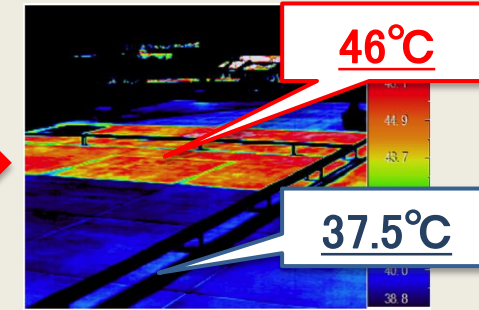
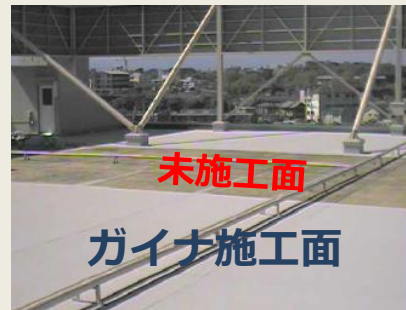
効果事例 熱の発生を抑え、室内の温度を下げる。

効果事例①（コロニアル屋根）



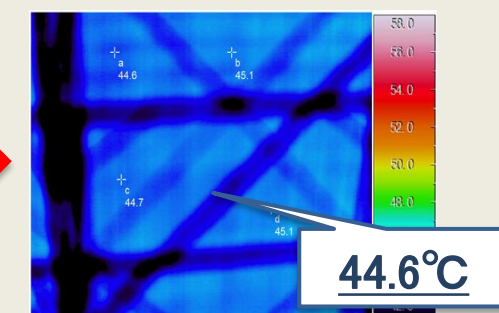
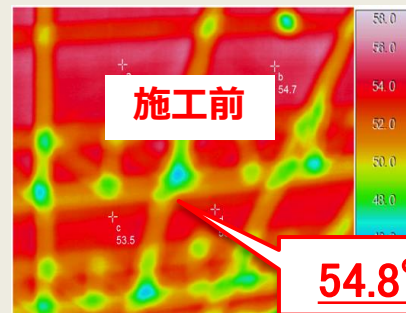
14.7°Cの
温度差

効果事例②（屋上コンクリート）



8.5°Cの
温度差

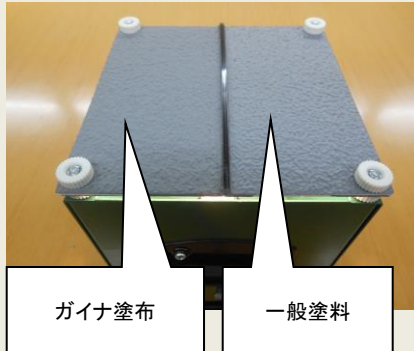
効果事例③（折半屋根）



10.2°Cの
温度差

手のひら体感実験

実験①



塗膜面を上に向けて、
熱を加えます。



電球を点灯して約2分後、
鉄板に触れると熱の伝わり方が
比較できます。

塗布した面はどちらも高温に
なりますがガイナのみ
火傷することなく触れます。

その他の箇所は高温になりますので、
火傷には充分注意して下さい。

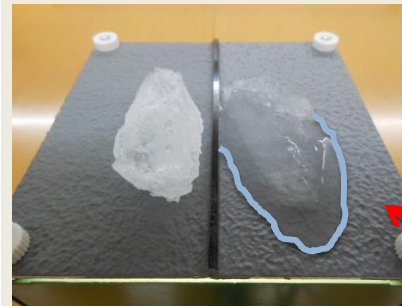
氷の断熱実験

実験②



熱した塗膜面に氷を乗せます。
(塗膜面は上向きで加熱する)

スタート時



1～2分経過すると電球の熱が伝
わり氷が溶けてきます。

ガイナ塗布面は氷が溶けず、
電球の熱を抑えています。

氷が溶けている。

1分後

お客様への説明ポイント

なぜ、熱い鉄板が触れるのか

なぜ、氷は溶けないのか

ガイナは周辺の温度と同化する特性がある。上記の実験では、手の温度、氷の温度に同化。
よって、熱の移動を最小限に抑える。

期待する効果

建物内外部からの熱の移動を抑え、冷暖房効率を高める。